

**第12回地質リスクマネジメント事例研究発表会
一般参加者募集について**

開催要領

共催：地質リスク学会、一般社団法人全国地質調査業協会連合会

協賛：国立研究開発法人土木研究所

＜開催趣旨＞

事例研究発表会の主な目的は、建設工事等における地質リスクのマネジメントの実例を紹介し、様々な課題を議論し共有することにあります。

＜開催日時・場所＞

開催日：令和3年11月26日（金） 定員：80名

開催場所：飯田橋レインボービル

〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町11番地 飯田橋レインボービル TEL 03-3260-4791

＜参加費＞

無 料

＜参加お申込みに当たっての注意事項＞

新型コロナウイルスの影響により、以下とさせていただきます。ご迷惑をおかけしますが、事情ご理解の程よろしくをお願いします。

(1) 募集人数 80名

＊感染予防のため、当日の来場者数は、施設定員の約3割に抑えて行います。

(2) 事前のご案内

①当日の体調管理をお願いします。体調不良の場合は、参加をご遠慮下さい。

②入場の際して、検温を実施します。熱のある方については、入場をご遠慮いただく場合があります。

③入場の際しては、マスクの着用が必須となります。

(3) 当日の論文集は、事前に地質リスク学会ホームページから公開いたします。

＊テキストは、地質リスク学会のホームページからダウンロードしていただく形式とします。

＊地質リスク学会会員の登録（無料）は、こちら→ http://www.georisk.jp/?page_id=557

(4) 今後の感染拡大状況によっては、直前に事例研究発表会を中止とさせていただきます場合もありますこと予めご承知おきください。中止とした場合には、講演論文集を地質リスク学会のホームページに掲載し、本年度の事例研究発表会とします。

＜申込方法＞

(1) 全地連のホームページの申込サイトからお申込みください。 <https://www.zenchiren.or.jp/>

(2) 参加者の方には、事前に「受講票」を送付します。

＜募集期間＞

10月12日～11月10日（定員になり次第、終了いたします。）

＜プログラム（予定）＞

開 場： 12:30

開 会： 13:00～

開会挨拶： 13:05～13:20 渡邊 法美 地質リスク学会 会長 （高知工科大学 教授）

特別講演： 13:20～14:00

「(国研) 土木研究所における地質リスクマネジメントの活動について」

宮武 裕昭氏 (国立研究開発法人土木研究所 地質・地盤研究グループ)

報告： 14:00～14:15

「地質リスク調査検討業務の手引き」の発行について」

岩崎 公俊 ((一社) 全国地質調査業協会連合会 技術参与)

事例研究発表会： 14:30～16:30 （発表編数は6編）

*本発表会は、ジオ・スクリーニングネットを運営・管理する“土質・地質技術者生涯学習協議会”が開催を確認しており、CPDの加点対象となっております。(加点ポイント：3)

*本発表会のお申し込み手続き関係は、(社)全国地質調査業協会連合会が担当しております。

事例研究論文一覧（予定）

発表者	所属先	題 目	発表内容	事例の種類
齋藤 和春	セントラルコンサルタント (株)	3次元電気探査を用いたトンネル拡幅湧水量予測による工事費・工期のリスク低減の一事例	既往の老朽化したトンネルを拡幅する場合、拡幅掘削に伴う地山の崩落、突発的地下水の湧水の発生などの問題を生じることが多い。これら問題解決のために、風化状況や地下水分布状況を高精度に予測することが施工安全性、工事費用のリスク低減に大きく寄与すると考える。	D型
居川 信之	(株) エイト日本技術開発	山岳道路の維持管理における地質リスクマネジメント（盛土崩壊の事例）	筆者は、高山地に位置する全長17kmの一般自動車道において、15年間継続して維持管理業務を行ってきた。その間に発現した斜面崩壊や落石等の地質リスクに関する事象についての対応内容（発生機構・対策方法・対策コスト等）を紹介する。また、最近問題となっている施工過程の不詳な谷埋め盛土の崩壊事例とその対応方法についても言及する。	B型
近藤 桂二	(株) ダイヤコンサルタント	暫定2車線区間の4車線化へ向けた地質リスクの検討事例	本事例は、現在供用している暫定2車線区間（Ⅰ期線）の道路の4車線化施工（Ⅱ期線）を見据えて、地質リスクの抽出・評価等を行い、今後の設計・施工・維持管理段階における地質リスクの低減等を図るため、後続調査計画を立案したものである。これらの検討事例について報告する。	D型
加藤 智久	中央開発 (株)	深層崩壊危険斜面における地質リスクマネジメントに関する一考察	深層崩壊発生リスクが高い付加体地域において、深層崩壊が発生した現場を対象として実施した原因究明調査、モニタリングの結果等を報告する。また、深層崩壊に関する既往の研究成果や事例を収集し、筆者が実際の調査で得た知見と併せて、深層崩壊危険斜面における地質リスク抽出とリスク評価に関する考察を行ったので報告する。	D型
鄭 詩穎	岡山大学	応答曲面法によるため池のリスク評価 Risk evaluation for earth-fill dams by response surface method	平成30年豪雨で数多くのため池が絶堤し、環境と経済に大きな影響を与えた。自然災害によるため池の破堤を防ぐため、事前にリスク評価を行うことが必要となる。本研究はため池修復の優先順位から岡山県の10か所ため池を研究対象として選定した。氾濫解析を用いて被害額Aを算出し、それから回帰分析によって被害額Bを算定し、応答曲面を作成した。最後にグンベル分布で求めた確率降雨量から得られた破堤確率を合わせてリスク評価を行うこと。	B型
奥田 朱音	応用地質 (株)	地質リスク評価における簡易試験の有効性と適用上の留意点	従来から地質調査で用いられる簡易指標試験（シュミット式ハンマー試験や帯磁率測定等）は、物理的・化学的データを迅速かつ安価に多数取得可能であり、地形地質踏査とあわせて実施することで、地質特性の把握や地質が持つ不確実性への対応、その後の調査計画策定に活用できる。本発表では、道路事業の初期段階での簡易指標試験の具体的な適用事例について紹介し、地質リスク評価への有用性、今後の発展性について発表する予定である。	D型

* リスクマネジメント事例の種類は以下の4タイプとなっております。

A型：地質リスクを回避した事例

B型：地質リスクが発現した事例

C型：発現した地質リスクを最小限に回避した事例

D型：上記のA型、B型、C型以外の事例